

三豊市の未来に向けて、新たな挑戦

地域商社「瀬戸内うどんカンパニー」を立ち上げます

平成29年度、市の重点施策の一つである、「地域商社づくり事業」。現在、市では地域商社「瀬戸内うどんカンパニー」の設立に向けて取り組んでいるところです。そこで広報みとよでは、地域商社に関する動きを追いながら、今後継続的にお伝えしていきます。

瀬戸内
うどん
カンパニー
Setouchi Udon Company

瀬戸内うどんカンパニーは、いったい何をする会社なの？

地域の素材や資源を生かして、さらに魅力の高い商品を開発し、新たな販路によって三豊のモノが継続的に売れる仕組みを作る会社です。
うどんだけではなく、幅広い三豊の魅力を発信していきます！

そもそも地域商社ってなあに？

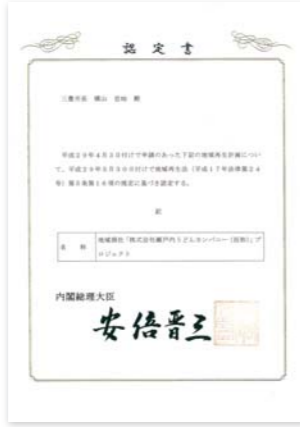
地域商社を一言で表すと、「地域の稼ぐ力を強化する会社」です。三豊市には、豊かな自然の中で育まれた農産物やその加工品、訪れた人を魅了する観光資源が豊富に存在しています。しかし、全国的な知名度はまだそれほど高くなく、本来の価値をうまく引き出せないまま、市場に送り出している場合も少なくありません。

そこで、地域商社は生産者に代わり、販路を開拓するとともに、市場の声を生産者に届けて、魅力ある商品づくりのサポートを行います。さらに、地域の素材同士を掛け合わせることで、新たな可能性を見出す役割も担っていきます。将来的には、他の地域商社や企業、観光業などの異分野とも連携しながら、地元経済を活性化させることが期待されます。

地域商社事業に関する平成29年度の市の取り組み

平成29年度は、瀬戸内うどんカンパニーの経営トップとなるCUOの公募・決定業務や、業務委託事業のトライアルスタート（試験運用）などの業務支援を実施しました。

なお、平成29年度における地域商社事業費4,291万円のうち、国から4,150万円（地方創生推進交付金と交付税）の支援がされる予定です。



▶地方創生推進交付金を活用した地域再生計画として、国から認定を受けました

最高責任者CUOの選考を行っています

CUOの選定については、全国から公募したところ、東京を中心に県内外から24人の応募がありま

した。現在はその選考を行っているところです。

6月30日から7月2日には、一次選考を通過した候補者7人が、三豊市での選考合宿に参加しました（別日に1人実施）。候補者たちは2日間に渡り、生産者や加工品業者、飲食店などを訪ね、みよの魅力と課題を把握しました。

最終日のプレゼンテーションでは、高瀬茶と地元のフルーツを組み合わせた商品の提案や、紫雲山や父母ヶ浜などの観光資源をいかに売り出すかなどといった事業計画が発表されました。

今後、CUOは最終選考を経て、8月下旬に決定。その後、9月に業務を開始し、10月には法人設立を予定しています。



▲合宿最終日、CUO候補者による事業計画のプレゼンテーションを実施

三豊市の地域商社設立に当たっては、「内閣官房まち・ひと・しごと創生本部」と、民間企業主体で構成される「ふるさと名品オプ・ザ・イヤー」から成る「地域商社協議会」のサポートを得ています。今回は、数多くの地域プロデュースを手掛け、ふるさと名品オプ・ザ・イヤー実行委員長として、「瀬戸内うどんカンパニー」の立ち上げに深く関わる古田さんにお話を聞きました。

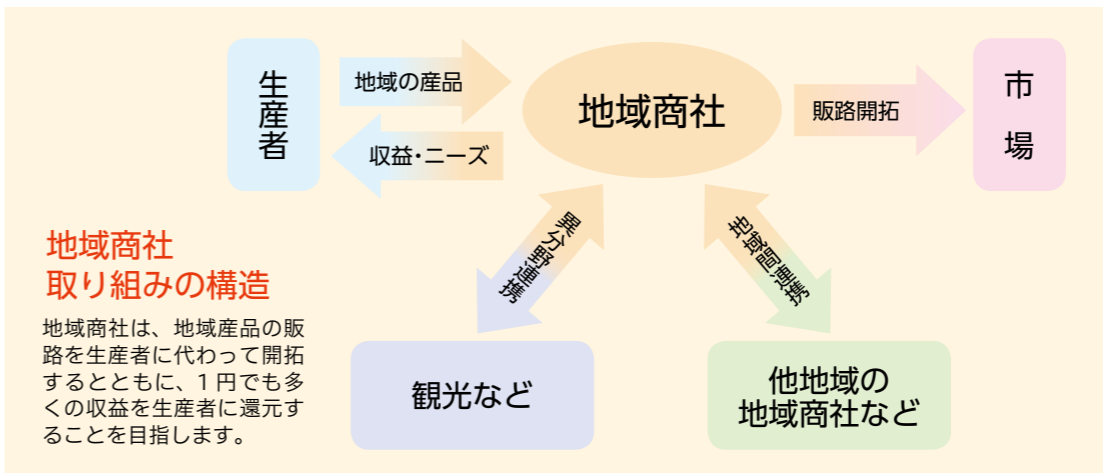
どうして「瀬戸内うどんカンパニー」なの？

「三豊市は豊かな自然と、うどん文化がある魅力度の高い地域です。その良さを日本中に伝え、人を呼び込むために、今回は「瀬戸内」「うどん」という全国区のブランドを生かします。今後、瀬戸内うどんカンパニーは、地域の素材を掛け合わせて、新しい価値を生み出しながら、みよのモノを売るきっかけ作りを担っていきます」



ふるさと名品オプ・ザ・イヤー実行委員長 古田秘馬さん

三豊市には全国に誇れる魅力的なものがたくさんあります。それらを市場にうまく売り出していくことに瀬戸内うどんカンパニーは挑戦します。



問い合わせ
田園都市推進課 73・3011

瀬戸内うどんカンパニーのHPはコチラ

